

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	レコルダクラブ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 14日		2025年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	2025年 2月 14日		2025年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 4月 8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援サービスにおいて、独自に研究・開発した脳機能プログラムを活用し、児童の発達段階に応じて、学習支援を中心とした1対1個別療育を行うことができること。	保護者や利用児童のニーズを細かく聞き取り、そのニーズに応じて様々な支援プログラムから課題設定を行っている。個別支援計画では、利用児童の課題と思われる点について、5領域すべてを網羅する形で課題設定を行っている。	個別支援計画作成後、支援課題に沿って療育を行うことはもちろんのこと、利用児童に合わない課題や、もう少し変えた方が良い点については、職員間で情報共有しながら改善していく。また、その際に保護者様とより綿密に情報共有をしていきながら取り組んでいきたい。
2	法人内研修計画に基づき、新人職員や既存職員への研修を積極的に行っていること。	新人職員や非常勤職員が療育を行っても、常勤職員と同じような質を担保できるように、教材や療育手法の研修を行っている。また、既存の常勤職員に対しても、療育内容が固定化しないように、常にブラッシュアップできるような研修計画を立て、定期的に研修を行っている。	新たな療育手法や、スキルを取り入れ、よりよい療育を提供できるように取り組んでいきたい。
3	小学校に入学する準備クラスとして、集団療育クラスを設けていること。	授業→休み時間の流れをシミュレーションした形で療育を行っており、小学校入学前の年長児クラスを設けることにより、進学後も無理なく集団生活に馴染めるような支援を行っている。また、保護者様と情報を共有し、苦手な課題のサポートを行い、児童の「わかった!」という思いを持ってもらえるよう支援している。	保育園、幼稚園等との情報連携をさらに強化し、児童の最適な療育内容をチームで検討し、課題解決に取り組んでいきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育の質に差が生まれてしまうこと(指導員の得意分野にばらつきがあるため)。	ベテラン職員に比べ、知識の少ない職員が療育に当たることによって、療育の質にばらつきが生じてしまうため。	新人研修、社内研修をより充実させ、質のばらつきが生まれないように工夫していく必要がある。また、様々な得意分野を持つ職員を配置し、それぞれ補完しあいながら、療育の質を保っていく必要がある。
2	大規模災害に対応できるよう常日頃から備えておくこと。	開業以来、大規模な災害に見舞われた経験がないため。	定期的な災害訓練や、BCP訓練を通じ、いつ災害が起きても準備ができるよう備えておく必要がある。
3	情報発信、地域間交流等の機会をもっと増やす必要がある。	マンパワーの問題で、情報発信や地域の方々との交流を持つ機会が少なくなっている点。	保護者様ともっと交流する機会を持ったり(交流会の開催等)、地域のイベントに参加したりする機会を多く持つようにする。